巻頭言

いかなる災害にも屈せず、守るのは命。そして川崎市の未来

川崎市消防局長　大友　正人

川崎市は、神奈川県の北東部に位置し東京都と横浜市の間に位置した人口約156万人の指定都市です。東京都と横浜市に接しており交通アクセスや産業、文化の面で首都圏の重要な役割を担っています。

市内は、７つの行政区で構成されており、臨海部には日本有数の工業地帯が広がる一方、北部には緑豊かな住宅地や自然環境も残されています。工業都市として発展してきた歴史を持ちながら、カーボンニュートラル社会を目指して現在では、世界最先端技術の研究開発施設も集積し、産業と生活環境が調和した都市へと成長しています。また、スポーツ文化活動も盛んでサッカーＪリーグの川崎フロンターレやＳＶリーグのＮＥＣレッドロケッツの本拠地としても知られ、市内各地において共同でイベントを開催し地域を盛り上げる活動を継続して行っております。さらに、市民参加型のイベントや地域防災活動も活発で地域コミュニティを大切にするまちづくりが進められています。

近年の全国的な人口減少の加速、深刻化する人材不足や地域間の偏り、自然災害の頻発・激甚化など、自治体運営が直面する課題はかつてないほど複雑化しており、もはや従来の制度や枠組みだけでは、こうした課題に迅速かつ柔軟に対応することが難しい状況となっています。現在の実情に即した制度設計が求められる中、川崎市は大きな転換点を迎えており、新たな大都市制度である「特別市」について議論を進めています。川崎市民156万人の暮らしを守り、未来へとつなぐ責任を果たすために、「持続可能な都市」として将来を見据え、基礎自治体としての役割を着実に果たしながら、国・都道府県との適切な役割分担の下、周辺自治体とも連携を図り、日本全体の発展と地域の持続可能性に貢献していくものです。

このような中、川崎市消防局では市民の生命・身体・財産を守るという不変の任務である消防行政を推進するため、令和８年度川崎市消防行政重点施策を定めています。主な施策としましては、①救急体制の強化としてＩＣＴ等のデジタル技術を活用した救急業務の効率化に向け救急情報共有システムの導入を推進、②火災予防に向けた関係機関等と連携した火災予防広報の実施、③地域防災力の充実・強化のため幅広い世代に対する防火防災教育を継続的に実施、④災害対応力の向上のため震災工作車・重機工作車の更新、⑤防災活動拠点等である消防署所の整備、⑥消防指令体制の適正な維持、⑦その他の取組として、働き方・仕事の進め方改革として隔日勤務者等の育児休業等取得に伴う代替職員の効率的な運用の検討について推進いたします。

結びになりますが、川崎市は、「未来を拓（ひら）く都市」として、市民が誇りを持ち住み続けることができる街に選ばれるよう、消防職員1,458名が一丸となって安全・安心を守ってまいります。

Colors, Future!
いろいろって、未来。
多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。
川崎は、1色ではありません。
あかるく、あざやかに。重なり合う。
明日は、何色の川崎と出会おう。
次の100年へ向けて。
あたらしい川崎を生み出していこう。
川崎市

100+2歳のまち